



石門

心學道の話

二篇上

9
3895
4



門口 9
號 3895
卷 4

早稻田大學圖書館
昭和27.6.16
藏書

心學道之話 二編 卷之上



藝陽 奥田壽太講話
東武 平野橋翁聞書

前席

孔子曰坤道其順乎承天而時行積善之家必
餘慶積不善之家必餘殃臣弑其君子弑其父
非一朝一夕之故其所由来者漸矣由辨之不早
辯也易曰履霜堅冰至蓋言順也
大聖孔子之語で別易の坤の卦の志とては鏡あされとあり

心學道話

卷上

二編

かくいへばとゞゆ。志と今日の法語の類はつとゆらん。ち
 い坤道とい地の及とゆ。え来天地の世界の太父母か
 天の及と乾道とい地の及と坤道といてこれ法語の
 大原であざり申。さふよんて大學の序もいや一人の
 聖人ぐが天と地と極とたてたふも亦以とも申てござり
 て神道でい合人親玉の神代の巻も儒及でい禹湯文武
 の法とゞも皆この天地の理法観。これと規矩とささ
 るより外はは申ういたん此語も。てうどを通りて地の及
 と規矩とて世界中の人の子なるものや辰なるものや女
 房なるものや弟なるもの。そ親や主人や妻や兄とつら

する心得とて法とわいあされて。まづこふ坤及は其略乎
 と。おやせらまてきとを申。わらう申うふつと地の及と
 つとものに扱もく淳空かそのとどやと清感かそれと
 清とば。そりやたせらるれば此大地の年中天の指圖を
 申。ちつと法を申。おさうねあトや天といふのい
 振る虚空かゆも。なん申うふそのなれど此空が野は法
 てあざるゆ。さうら此大地一時小清さしづなる。まづ
 妻いあのをが。そりく暖なる。さあしく妻があさぞ
 来よ芽とわいころどとよと清指圖かさると大地が
 小言もい。日。なしくと聖山の来よ。さあ芽と出い。

の藤の七等の葉葉のとめつこむしやうふ。わでこがるた
今の款

雲根と見しもむづの露成けてみどりふりるをば葉葉
それうろを暖きぐだんく強うわらふ。志さぐを桃の
本一挑の花とさうせさう桃の本に様のもむさうでる又
天乃さぬが暑うちのむ。そりやのふ夏物と仕出の時分
むよと。いこやると大地ぐまのくと落しやの筆とや
の茄子どやの西瓜どやの南瓜どやのとさぬぐの漬料
裡と仕出の秋の天のさしづとうけて松茸どやの海茸どや
のをい天のさしづとうけて葉どやの大地どやのとえ日うら

大晦日まで天の清さしづのま。ちつとも清そむさあさう
ぬや其順なるうふと清嘆とあされとをて形容のうらで
つと天の上を立てたつとまのちうらまの地は下を立て
いやしの女房の中うふとのや。そこでそ大地の清内依
ぐ天のまのさしづと水てちつともそむいづそ時々の物と
世界へ遠化むしてあざると承天而時。行かき終られさ
あの時ま婦いむうらう地中うふ私合してつらまはぬげ
んら。あされこともなくまのねのつらふももるふ
かんとたつとふきのよやあいう。それよその雛形のんあひ
おあしくまぬげんらうて。さうのいぬのとつらふところがある。

路儀おその下や

去といふまゝ又喉い居ぬといふたゞと猪とのけんをこもを
 死ごさの畜生道のきふ。このせららのちくしやうなさん
 と。そづういふしやから扱その夫婦の天地のむるぐさ
 なるゆゑあの人間の川流でも考へてゆらうと俯向よ
 なるゝ流まるい男。仰向よなるて。おがまるへ女とやといひ
 ます。天のうらう覆ひ地。下うらう裁が自然に及理志う
 ありや夫婦のむをうらうとや。るゝ流を身は引合して考へ
 見やなう。ぬまづ親の天でよまをて。きいもの子へ地
 下につく。いやしものをも人の天でよまをて。たつといもの

家来へ地を下につくいやしもの見へ天でよまをて。たつ
 といもの身へ地を下につく。中いもの娘へ天でよまをて。
 たつといもの嫁へ地を下にほく。中いもの何でも位のたう
 い方へ天で位のむくい方へ地とや。そこで親の天でうらう
 指圖をうらうの地で下うらう承て。をうらうと。そむらう孫よま
 けまど。親くどもい。おろくらの天地とむつらううに親父孫
 が。あま長松よけくも。うらうと。おうれまうらう。幼す。うら
 ろふとい。い。中ると長松がなうらうと。うらうよ。お老人の
 つゝぬ世。活うち。控て。おろし。われと。ほい。むらうらう。うらう。ま
 婦の中も。そのと。うらうと。女房のまの。つゝと。うらうよ。ま。うらう

順しんへよいづご。どろくむつらうりたり果は法亭主のいづこ
 まへ。あらうて小使する中うちあらむがおらる新儀おものどや。
 志り又さういひのよの人のよは主親の主人の主の見え
 のといひ中うお天の位のももん坊が大子どや。さらうち八支
 の系疏が一つ又まさこといつている垣のらづまる中うおまえ
 として家内と叱まいしる飯時が一時おしまさうといふ
 ていひ僅年ふでもまさこ中うお顔と志うらて鼻と暹ま
 さいと。さらうど六月ごろは雪があり梅雨ごろは日照
 のはどく中うおもの也。おものい出来ぬう。ずいふん
 新儀は不順のちの中う儀ものいなりませぬものい

又女中づこの儀おちらるよいどうちらる針糸を法
 ちて針は法ゆさ糸は後う儀ませふらのさうさすれば
 何でも縫る針は剛くた法考さる糸は糸お法内儀
 さらいどや。そこでさらうの法亭主がさらいまさく鼻よく
 とおよてゆく。糸の法内儀のちう。あいくくと厚衣を
 二附てまゆけ。それでよいのどや。それとさらうすると法糸一
 ちりく節がおまて。何とうういふ鼻よどう法糸主産
 てもせうまさく採子どや。ちようと見舞う法糸といふと。
 何その中うお狼狽てゆくよい及たぬといふ。そこで考
 まがいや近所の法糸今ち。さうしたものでいふといふと。

それでも此方の産んだ時に、中うしく七夜が、すごとて見舞
 小見入ると引込む。それ、そらでも、まあ中へ切がよふと
 けさ、何みおくの身がとや。その中うも、とさげて。あや
 まらふ、いかんと引込むとさげるとや。なひけまど。そら
 親とつよものどやといふと。さ、はあ、その中うお結構に
 じやう、年中人、河原にせられ、中うお目、何、これ
 る。ちも嗜ま、中もと引込む。あ、は、い、い、針と糸との縁の
 きれ、三、切、ま、と、い、て。あ、つ、は、う、と、切、や、な、う、ぬ、女、も、つ
 め、い、で、牛、の、お、が、つ、ら、と、う、い、さ、り、も、お、ご、う、ま、ん、が、熱、作、女、の
 を、ら、め、い、お、い、晴、く、月、秋、の、中、う、お、ま、の、ど、や。た、せ、る、れ、月、い、お

んが、産、ても、中、作、が、陰、也、濁、く、ま、く、い、お、が、は、る、又、男、の、お
 ろ、う、お、い、お、つ、さ、意、の、中、う、お、ま、の、ど、や、音、い、る、ん、が、ら、の、門、く
 飛、ても、本、作、が、陽、也、す、も、い、ぐ、中、で、め、う、が、ゆ、さ、と、い、く、ま、い、
 じ、や、ま、よ、い、く、女、い、の、い、お、ん、は、お、め、でも、其、ま、の、後、
 ま、は、い、て、ゆ、い、の、び、お、い、ね、糸、が、ど、の、中、う、ま、強、う、て、ま、さ、う、て
 も、針、と、糸、一、は、も、て、糸、が、さ、ら、い、ま、く、は、い、く、と、い、く、つ、て、飛、
 て、い、糸、袋、一、つ、も、ね、つ、る、も、の、ど、や、な、い、牝、鷄、毎、晨、牝、鷄、を
 晨、是、家、之、索、也、と、い、て、鷄、で、さ、い、牝、鷄、の、鳴、い、お、吉、の、兆、
 じ、や、と、い、て、あ、る、ま、い、と、い、う、ど、や、天、地、の、上、下、と、い、つ、り、う、い、れ
 ぬ、お、い、や、う、う、猫、の、ま、い、な、う、縁、び、る、ぬ、女、中、方、い、ど、い、ど

此糸の端也。とこの出處ぬちり流儀もさるがゆゑ
ト也。又いふに、女中のみばりつて居
ると流男子方ハ、何よる中とりて居るけ分の儀も
すて居るぞと思ふ流方が何うぞ。知れぬが針の流亭
まゝ家内とみらびく先達也。又たるりト也。此針が親縁
志より大流各より色づい志より鴉事のやうに三
間飛しお。ゆつてゆく糸の鼻もや門をり親縁しり窓
喰志より流等かゝるり拵ぎゆとほものにするる針の
流亭まゝおんわが流のゆいとはまやう中と針
おぬふて。ゆつておぬ。さうすると針と糸とが一作を
おぬふて。ゆつておぬ。さうすると針と糸とが一作を

どの中もたまたま身体でも。そのえのよぬくすするす
てお事ハ何でも。そのうちまよつものハ天の位後
はくりの位。地の位。水の位。後の刺竿とすげらふでも
燈籠の位。何れのものも天の位でこれと休する。何れ
もたまたま刺竿の位。何れのものも天の位。何れ
も休する。そのは智子がさるの穴の大小と見合せ。そ
まゝ命と刺竿と切らり。けむつたりとすげらふ。流で
も人との家とかくまゝ左の方へかく長い方の点ハ潮と
つて。さういふは是が則天の位で人でもいふ主人や親やま
や兄の中もかゝる。又右の方へかく短い方の点ハ流

なるものや大切なるかば一つとけいじつ一々の
 出と侍儀りおされ毎晩くはそはでいかえおしを
 かさきこもりやとやぞ。その中か紙のほるやてりや
 所へ注てんても小見の時のさおしとつひは出よき
 何とつてさきものぞとつて押さの日本の用けさばさまり
 修辭儀修辭冊のまきのはま輝り侍出さかされて
 関門支配とつて男侍をおとこの方とはとめ女侍々
 おん家の方とほりてみ日本國中一人の方と侍志めり
 おされてうら開けさるものやその事と尉と姥と、擧て
 侍儀りおさきこもりのどやげる。そこで紙がながれて是く、

とつておのきくがみるまると正連よみてさる
 食ものいゝものか孔子さぬも難とせんふくを獲こと
 後まるとおせらるる。さるるにゆでも侍たういふ。侍と
 める事と方よせさるやからぬるを侍ざりまん叔を尉に
 陽で言へともうのぼるま位のたつともものや山一芝
 刈よのり妹アハ法でむくいあつらるる位の内中の
 や川一洗儀まのり。のりやさるるわけは乾坤のまらぐ
 たるるや家内よものつひまに出来ぬけまど。とく尉が
 川へせんさく小侍さるる妹アが山一芝うらふよらるるまぬ
 けんらさや見弟つさるる嫁姑のせうやいも出来る侍いお

ども。さうふよんをまたぐいはい天地と違ふぬ。せぬ
 中。すいあん様中終々なぬゆでびざうまん。すて
 ちドヤの孝じやの。いよるもいんも。かまて六ウウ
 りするの。いんちんの上も只子らるもの。親のん。まう
 ちつて阿唯く莞尔く順ふところ。孝といふ名が
 附家来い主人の身と。まうせ。ちつてまうたるゆ。阿唯く
 莞尔く順ふところ。でちといふ名がつくの。じや。まう女
 房がまをゆいなりさひい。いひくふこく順ふ。ち
 といふ名。はま弟が兄のん。まふなつて。いひくふこ
 くまう。まう順といふ名。はま弟が兄のん。ちんでも

かうさえわけ。せよ。海と結構。目わた。いひる。いひ
 せと。長も。いひ。体も。いひ。まじも。つて。縁の福の縁
 といふもの。じや
 けいけいの返。まう。せ。い。け。ら。も。人。も。あ。い。も。た。あ。あ。あ
 けぞ。後。とい。は。不。意。ま。あ。う。な。も。あ。る。り。地。り。な。も。淵。で。小
 鳥。小。雀。あ。け。う。う。ま。あ。う。ま。の。や。う。ふ。お。り。て。わ。ら。ぶ。さ。り。や
 ち。さ。さ。う。管。ら。う。い。と。や。福。とい。ふ。字。に。誰。中。も。徳。な。り。音。を
 とい。て。あ。つ。く。や。い。な。う。は。あ。が。う。や。ね。お。う。ま。れ。つ。つ。と
 本。心。の。名。な。ド。や。と。れ。が。や。う。う。ま。う。弟。一。の。身。を。た。り。さ。り
 家。業。の。材。も。一。五。倫。の。は。ら。と。合。う。お。こ。な。う。それ。が。誠。の

いよく合点せむ。そのやゆでも。こくくぬる。や十月でも
 一申ぬ。種さぬ。幾多も。ゆる申する。まづ。あの。烟子さぬと
 見や。一申も。十月でも。ゆる。志申ぬ。と。見へて。十月も。まびす
 縁と。つふ。まづ。ゆる。又。紙色。の。糸。お。紙。の。小。口。と。裁。の。こ
 たと。まび。紙。と。つ。い。ま。い。が。ゆ。ま。が。申。だ。り。種。の。ま。の。こ。う。と
 つ。あ。り。ド。や。げ。る。さ。う。い。ふ。べ。烟。子。さ。ぬ。に。申。ぬ。よ。遠。い。か。ん
 ぐ。それ。ま。ま。と。現。在。ゆ。り。一。申。ぬ。に。ま。ま。種。と。見。て。世。方。の
 内。に。十。月。で。も。申。だ。り。い。ん。ぢ。う。か。と。つ。に。亭。主。も。ら。る。種。と
 申。が。は。い。て。地。の。種。さ。ぬ。に。ゆ。き。も。よ。い。が。い。ん。ぼ。う。種。ハ。十
 月。一。月。で。も。よ。い。付。て。ト。され。い。よ。い。よ。と。ま。ま。を。き。る。工。面。に。あ

ま。い。り。と。つ。い。申。女。房。も。考。へ。て。そ。う。や。れ。が。あ。る。時。を。し。さ
 で。ま。い。る。ま。づ。あ。る。種。さ。ぬ。と。得。ん。ま。い。に。決。と。よ。い。が。よ。と。申。り
 お。申。も。ど。ぶ。ど。と。奇。と。よ。や。一。申。ぬ。に。い。ま。し。た。ま。と。ば。耳。も
 も。それ。い。と。ま。い。か。い。か。が。考。へ。出。した。決。ま
 い。つ。ら。の。あ。る。せ。た。り。る。種。を。月。に。申。ぬ。身。も。と。あ。れ。ず
 と。誦。ま。した。ま。い。ら。う。この。徳。と。い。ふ。ま。の。い。と。あ。ら。う。あ。ま。の。ト。や
 画。一。か。つ。か。う。お。ま。ま。を。種。り。を。い。へ。む。と。あ。つ。と。あ。て。お。ら。う
 と。その。は。す。う。ぐ。に。瘦。く。け。て。色。青。ざ。ら。い。よ。い。申。ぬ。と。あ。ら。う
 固。扇。と。り。つ。て。さ。も。か。る。い。げ。よ。ま。ま。あ。ら。う。び。や。ま。ま。と。あ。ら。う
 う。ら。と。お。て。あ。ら。う。い。お。ま。と。が。氏。子。ふ。な。り。た。い。もの。に。世。通。り

の内膳うちぜんもかねといふやらのどや内膳うちぜんと内膳うちぜんの事ことで
家内中うちうちが年中ねんちゆう去いりみ新あたらで親おやもまぶしくもあぶく
旦那だんなもあぶしく家来けらいもあぶく夫おつともあぶく女房にようぼうも
あぶくでばいり笑わらふこゝろのなる内うちが中ちゆうあぶく内膳うちぜんと
いふものゆゑ新あたらが日ひ新あたらと親おや向むかしてまのつて中ちゆうあぶ
はあゆいよや信しん作さくの方かたははちこの儘ままうちまは
なりあさるがよゝ又またその裏うらの福ふくの神かみに笑わらふるがすま
見て家内中うちうちが年中ねんちゆうあぶくあますると笑わらふ家いえに福ふく
あるといふてつゝ後の神かみがあぶく私わたくしの強つよで清きよすめりやま
せんがおまへさん方かたの清きよ好よし方かたとせらうたりも持も出いし

て清きよまうりあさるがよゝ板いたそれうがの妻つまは。さてわ
秋あきの徳とくよとんを笑わらふ神かみが中ちゆうあぶく。よゝりこんで
見て居ゐる外そとへは出いで上うへの間まへちんと飛とつてあま
婦つまはあきれてもい笑わらふ。あつても出い雲ぐもへ清きよおのでい
ざりませぬと問とひましたまは。いやくとらへもあ
のどやあふ今のうこの返へん奇きとはいおこのどやといふ
中ちゆうあぶいよや返へん奇きの中ちゆうあぶ及およびやせぬが今こん月げつハ神かみ
あぶとやんをさうくの新かみさぬが。い出い雲ぐもへ清きよおどや
けるそれよあふといふあふ飛とつてけい。あさんまんとあ
ましんべい。あまその神かみといひんとて返へん奇きよ

内膳 二 二

かつさけよはとわりのうへ吐^てどやお左傳^{さでん}も綱福^{きやうふく}を門^{もん}
 唯^{ただ}人所招^{にんしやう}也とあつて綱^{きやう}も福^{ふく}も實^{じつ}は好^{こう}なりううま^ま
 そのていなん^{ていなん}こそが方の^{かた}の^の好^{こう}ひの^の苦^く惡^{あく}邪^{じゃ}正^{せい}が^が漸^{ぜん}く^くふつ^つり
 はつてはあふ^{あふ}富^ふ盛^{せい}盛^{せい}長^{ちやう}綱^{きやう}福^{ふく}吉^{きち}凶^{きやう}とさる^{さる}ぐの^のす
 うこあう^{あう}つてうと^と春^{はる}の^の繭^{まゆ}といふ^{いふ}もの^{もの}ハ^ハ神^{かみ}つて^{つて}眼^めも
 かつらぬ^{かつらぬ}佐^さの^のもの^{もの}やう^{やう}それ^{それ}と^とつ^つむ^むれ^れば^ば糸^{いと}とい^いふ^ふもの^{もの}
 かり^{かり}その^{その}糸^{いと}と^と漸^{ぜん}く^く積^{つみ}で^でゆ^ゆくと^と後^{のち}ハ^ハち^ちう^うめ^めん^んト^トや^や
 好^{こう}二^にを^をど^どや^やの^の縷^{いと}子^すト^トや^やの^のこ^こう^う結^{むす}搦^なる^るす^すが
 れ^れと^とあ^あう^うつ^つの^の中^{ちゆう}う^うも^もさ^さの^のト^トや^や本^{ほん}縷^{いと}と^とお^おま^まべ^べも^もわ^わん^んと^とか^かり
 麻^{あさ}と^とお^おれ^れば^ば布^ぬと^とか^かり^り落^おと^とお^おれ^れば^ば施^し美^みが^が出^で来^きり^りを^を

おま^{おま}べ^べ筵^{ひら}が^が出^で来^きる^るや^やでも^{でも}織^{おり}績^{つむ}を^をの^の長^{ちやう}惡^{あく}お^およ^よの^の代^{しろ}呂^ろ
 お^おの^の上^{うへ}ト^トが^が日^ひり^りる^るそれ^{それ}ゆ^ゆえ^えに^に孔^{こう}子^しさ^さの^のが^が長^{ちやう}と^と績^{つむ}の^の家^か
 二^にハ^ハか^かる^るべ^べ竹^{ちやく}の^のま^まび^びり^り不^ふ長^{ちやう}と^と績^{つむ}の^の家^かい^いら^らる^るべ^べ
 解^{かい}の^の缺^{けつ}ひ^ひり^りと^とお^おま^ませ^せられ^れ中^{ちゆう}の^のま^まつ^つく

心學道之話二編卷之上終

